

輸出事業計画

※申請者名：株式会社和晃

品目：菓子

1. 輸出における現状と課題

- 輸出のターゲット国として米国に重点を置いており、米国輸出にあたり障害となっているのが、トランス脂肪酸、色素（ベニコウジ色素、クチナシ色素）、賞味期限の問題である
- 米国をターゲットとしているため、PCHFに対応する必要がある。また、最終納入先目標として、販売高の大きいコストコやウォールマート（GFSI加盟企業）に設定しており、GFSIベンチマーク規格であるFSSC22000が必要
- 今後の米国での販路拡大に向けて、信頼できるパートナー企業としての商社の開拓が必要
- 米国の輸出規制に対応した商品（酒まんじゅう、萬寿楽芋、ヴァッフェル、京えくぼ）を開発し、既存の規制適応商品も併せて様々な海外の催事・展示会に出展し紹介している

2. 輸出事業計画の取組内容

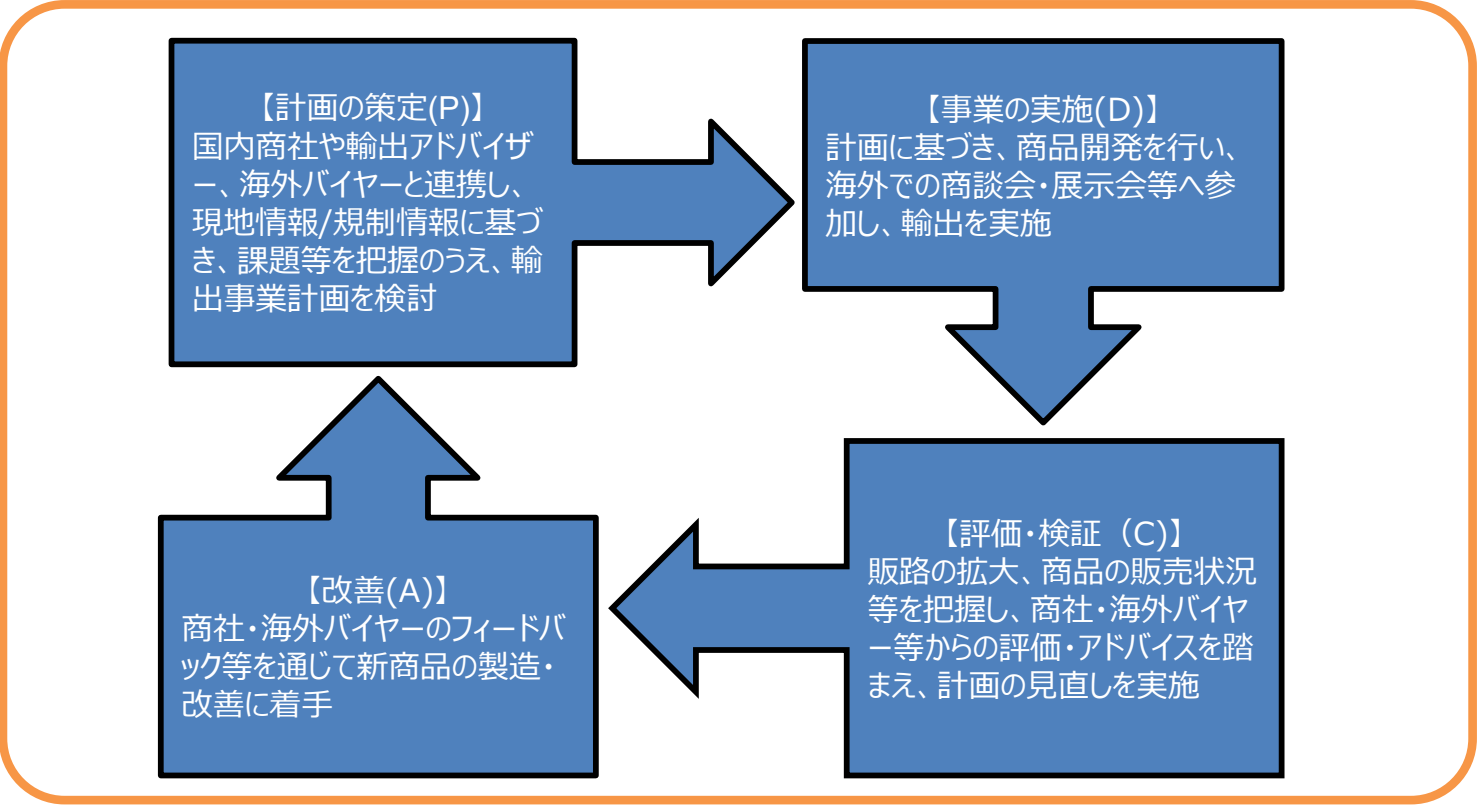
- トランス脂肪酸については、部分水素添加油脂不使用の材料に置き換えて対応し、ベニコウジ色素、クチナシ色素等の規制対象色素は、基本的に使用せず、抹茶クッキー等の色とびは、アルミ蒸着フィルム等の包材を工夫することで防ぐ。2022年に新規包材を使用した商品販売を開始予定
- 現在認証取得済みのISO22000からより食品安全の厳しい基準であるFSSC22000の認証取得を令和3年度末完成予定の本社新工場から目指し、3年後をめどに滋賀工場も含めた全社での認証を目指す
- PCHFへの対応のため、PCQIセミナーを担当責任者に受講させ、HACCPをより発展させた食品安全計画を作成する
- 商談会・展示会等へ積極的に参加することで、パートナー商社の開拓および、日系小売への販路を構築し、中華系小売への販路拡大を経て、最終的には米国大手のCostcoやWalmartでの販路獲得により、流通量の拡大を見込む
- 米国の基準に合わせた輸出可能な商品の開発（酒まんじゅう、萬寿楽芋、ヴァッフェル、京えくぼ）を進め、米国規制に沿った商品を国内でも流通させる

輸出事業計画

※申請者名：株式会社和晃

品目：菓子

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	【現状】 (2020年度)	【目標】 (2026年度)
輸出額	330,000円	36,000,000円
主な輸出先	米国	米国

- 米国輸出に対応可能な新商品の開発、及び現地大手小売における販路獲得により、輸出額の拡大を目指す